

医療用医薬品市場調査(5)

がん関連用剤、栄養補助剤、体内診断薬などの国内市場を調査

【抗がん剤市場】

2009年見込...分子標的治療剤が牽引し6,186億円(08年比10%増)

2017年予測...化学療法の位置付けが高まり9,800億円(同74.2%増)

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、国内の医療用医薬品市場を6分割し2年間で網羅する調査を行っている。今回はその第5回目として、がん関連用剤、栄養補助剤、体内診断薬、免疫抑制剤、麻酔・筋弛緩剤、消毒剤の市場を調査した。その結果を報告書「2009 医療用医薬品データブック No.5」にまとめた。

この報告書では、薬剤分類に応じた疾患概要、患者動向、治療薬の市場概況と開発状況を調査・分析し、今後の市場を予測している。

<調査結果の概要>

1. がん関連用剤

2008年	2009年見込	2017年予測	2008年比
6,545億円	7,075億円	1兆694億円	163.4%

抗がん剤、CSF(コロニー刺激因子) 制吐剤、がん疼痛治療剤を対象とした。

2008年の市場は前年比6.1%増の6,545億円となった。高齢化の進展で国内のがん患者数は増加しており、市場の拡大が続いている。抗がん剤が市場の85%以上を占めており、2007年、2008年に新製品が発売された分子標的治療剤の実績が寄与した。

CSF、制吐剤、がん疼痛治療剤は、がん治療における補助療法剤、周辺用剤である。CSFは、ガイドラインで適正使用の遵守・徹底を明記していることや、外来でのがん化学療法施行の増加により、市場が縮小している。制吐剤は、化学療法時の悪心・嘔吐に対する処方数が伸びているものの、上位ブランドにジェネリック医薬品が発売されたことから実績を落とした。がん疼痛治療剤は、化学療法施行患者に対する緩和ケアへの取り組みが積極的に行われていることや、使用できる薬剤が増えてきたことから、堅調に推移している。

2009年の市場は前年比8.1%増の7,075億円が見込まれ、2017年には2008年比63.4%増の1兆694億円が予測される。がん患者数の増加は確実であり、市場の拡大が続くと見られる。

【主な市場の動向】

(1) 抗がん剤

2008年	2009年見込	2017年予測	2008年比
5,625億円	6,186億円	9,800億円	174.2%

抗がんホルモン剤、分子標的治療剤、代謝拮抗剤、微小管障害剤、白金製剤、抗がん抗生物質、免疫強化薬、その他抗がん剤を対象とした。

2008年の市場は前年比7.7%増の5,625億円となった。適応拡大や併用療法の研究の進展に伴い実績を伸ばした製品が多い。中でも分子標的治療剤は、2007年に「アバスタチン」(中外製薬)、「タルセバ」(中外製薬) 2008年に「ネクサバル」(バイエル薬品)、「スーテント」(ファイザー)と新製品が相次いで発売され、その実績が市場拡大に貢献した。また、白金製剤は、トップブランドの「エルプラット」(ヤクルト本社)が結腸・直腸がんの多剤併用療法の処方でも実績を伸ばした。

2009年は前年比10.0%増の6,186億円が見込まれ、2017年には2008年比74.2%増の9,800億円が予測される。新薬の開発や併用療法の研究の進展により化学療法の位置付けが高まっており、

抗がん剤の投与患者数は今後も増加する見通しである。

(2) がん疼痛治療剤

2008年	2009年見込	2017年予測	2008年比
372億円	383億円	445億円	119.6%

医療用麻薬（オピオイド系薬）と非麻薬性鎮痛薬（非オピオイド薬）を対象とした。

2008年の市場は前年比2.5%増の372億円となった。1996年にWHO方式がん疼痛治療法が発表されたことや、緩和ケアに対する認知度が高まっていることで、市場は拡大を続けている。

2009年は前年比3.0%増の383億円が見込まれ、2017年には2008年比19.6%増の445億円が予測される。世界的に見ても日本の投与量はまだ低い水準であり、今後、緩和ケアの取り組みが更に進むことで、投与患者数、投与量が増加すると考えられる。

2. 栄養補助剤

2008年	2009年見込	2017年予測	2008年比
2,530億円	2,534億円	2,540億円	100.4%

輸液製剤、経腸栄養剤、ビタミン剤を対象とした（経腸栄養剤は食品分類も含む）

2008年の市場は前年とほぼ同じ2,530億円となった。高齢化の進展や様々な疾患へ栄養療法が導入されていることで、栄養補助剤の投与患者数が増加している。経腸栄養剤は、病院に加え福祉施設や在宅など幅広い患者に利用されていることや、ガイドラインで経腸栄養法を推奨していることがプラス要因となり、前年比5%以上伸びた。しかし、成熟市場となっている輸液製剤とビタミン剤がそれぞれ実績を落としたことで、市場全体では横ばいとなった。

2009年は前年比0.2%増の2,534億円が見込まれ、2017年は2008年比0.4%増の2,540億円が予測される。輸液製剤、ビタミン剤は引き続き減少するが、その減少分を経腸栄養剤の実績が埋める構図が続くと予想される。

3. 体内診断薬

2008年	2009年見込	2017年予測	2008年比
1,409億円	1,388億円	1,262億円	89.6%

造影剤（X線造影剤、MRI造影剤など）、体内診断用放射性医薬品などを対象とした。

2008年の市場は前年比3.1%減の1,409億円となった。市場の5割以上を占めるX線造影剤は、X線検査数が減少していることや、ジェネリック医薬品へのシフトが進んでいることに加え、薬価の引き下げもありマイナスとなった。また、MRI検査数の増加と共に堅調に推移してきたMRI造影剤も伸びが一段落し、2007年から減少に転じている。一方、放射性医薬品は、全体としては横ばい傾向にあるものの、PET検査用は急増している。

2009年は前年比1.5%減の1,388億円が見込まれ、2017年は2008年比10.4%減の1,262億円が予測される。薬価の引き下げとあわせてジェネリック医薬品へのシフトが更に進行し、金額ベースでの市場規模の縮小が続くと予測される。

4. 免疫抑制剤

2008年	2009年見込	2017年予測	2008年比
492億円	540億円	950億円	193.1%

2008年の市場は前年比9.3%増の492億円となった。免疫抑制剤は、骨髄移植や臓器移植時の拒絶反応の抑制などで投与される。リンパ球機能阻害剤が骨髄移植や臓器移植時の基準薬となっており、市場の75%以上を占めている。骨髄移植は、生存率の高さなどから一部の血液がんが第一選択となっている。拒絶反応やGVHD（移植片対宿主病）の治療薬として「プログラフ」（アステラス製薬）、「ネオーラル」（ノバルティス ファーマ）が術時、術後、予防といった全ての状況で使用され、市場拡大に繋がっている。臓器移植では、糖尿病による腎不全の患者数も増加しており、腎移植を中心に投与が増えている。

2009年は前年比9.8%増の540億円が見込まれ、2017年は2008年比93.1%増の950億円が予測される。移植者数の増加に伴い、市場は大幅に拡大すると予想される。

5. 麻酔・筋弛緩剤

2008年	2009年見込	2017年予測	2008年比
531億円	529億円	500億円	94.2%

麻酔用剤、筋弛緩剤を対象とした。

2008年の市場は前年比1.5%減の531億円となった。麻酔用剤は、薬価の引き下げやジェネリック医薬品の影響で実績を落とした。筋弛緩剤は、末梢性筋弛緩剤の「ボトックス」(グラクソ・スミスクライン)が眼瞼痙攣、片側顔面痙攣など適応が広いことで増加したが、それ以外の製品が薬価引き下げなどの影響で横ばいか微減だった。麻酔用剤、筋弛緩剤とも市場構造に大きな変化はなく、2009年は前年比0.4%減の529億円が見込まれ、2017年は2008年比5.8%減の500億円が予測される。

6. 消毒剤

2008年	2009年見込	2017年予測	2008年比
192億円	185億円	147億円	76.6%

2008年の市場は前年比5.0%減の192億円となった。薬価引き下げに加え、ジェネリック医薬品や薬価対象外製品との価格競争もあり、市場は縮小している。2009年は前年比3.6%減の185億円が見込まれ、2017年は2008年比23.4%減の147億円が予測される。

以上

<調査対象>

がん関連用剤	抗がん剤、CSF、制吐剤、がん疼痛治療剤
栄養補助剤	輸液製剤、経腸栄養剤、ビタミン剤
体内診断薬	体内診断薬
免疫抑制剤	免疫抑制剤
麻酔・筋弛緩剤	麻酔用剤、筋弛緩剤
消毒剤	消毒剤

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献による補完

<調査期間>

2009年2月～4月

資料タイトル:「2009 医療用医薬品データブック No.5」

体裁 : A4判 300頁

価格 : 160,000円(税込み168,000円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 メディカルグループ

TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514

発行所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-9514 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>